

研究テーマ
自ら学ぶ力と豊かな心を育てる情報教育をめざして
～ メディア活用で育てる情報活用能力
メディア活用で伸ばす確かな学力 ～

2年 生活科「すてきはっけん! みなみがわら」

平成21年11月18日(水) 第5校時 多目的教室

講師 川崎市総合教育センター 指導主事 樋口 彰

授業者 川崎市立南河原小学校 添野 雅美 教諭

1:20

1:40

2:25

2:40

4:00

受付	公開授業(2階:多目的教室)	移動	研究協議 (音楽室)	指導講評
----	----------------	----	---------------	------

第2学年2組 生活科学習指導案

指導者 添野 雅美

1. 日時・場所 平成21年 11月18日(水) 第5校時 多目的教室

2. 単元名 すてきはっけん! みなみがわら

3. 単元目標と評価規準

(1) 単元目標

- ・自分たちの生活の場である地域や人とかかわることを通して、自分たちの住んでいる町のよさを発見し、親しみをもつことができる。
- ・地域とのかかわりを通して気づいたことや分かったことを自分が工夫した方法で表現することができる。

(2) 単元の観点別評価規準

ア生活への 関心・意欲・態度	イ活動や体験についての 思考・表現	ウ身近な環境や自分について の気付き
地域の人々とそのくらしに関心をもつとともに、それらに親しみを持ち、自分の生活を広げようとしている。	見つけたことや、気づいたことを自分が選んだ方法でまとめたり、友だちに伝えたりすることができる。	活動を通して、自分たちの生活は、町に住む人々とかかわっていることや、それらとかかわることの楽しさ、町のよさに気付くことができる。
①今までの学習をふり返り、新たな町のすてきを調べようとしている。 ②町の人に、聞いてみたいことを自分なりに考え、町の人のお話を聞こうとしている。 ②くわしく知りたい人や場所を決め、すすんでインタビューの準備をしている。 ②町の人とかかわることを楽しもうとしている。 ②町の人のことを詳しく知ろうとしている。 ③町のすてきを発表する方法を考え、すすんで発表の準備をしたり、表現しようとしている。 ③友だちの調べた町のすてきを交流しあっている。	①自分が詳しく知りたいことを決め、調べることやインタビューすることをワークシートに書くことができる。 ②町の人に聞きたいことを考えながらインタビューができる。 ②町の人とのインタビューで分かったことや気づいたことをワークシートにまとめることができる。 ③調べて分かったことを工夫してまとめることができる。 ③友だちにわかりやすく伝える方法を考え、すすんで発表の準備をしたり表現することができる。	①今までの活動をふり返り町にはいろいろなすてきがあることに気付いている。 ②町の中に、親しい人ができたことに気付いている。 ②今まで知らなかった町の人のおみや願いに気付いている。 ③友だちが調べた町のすてきの発表から、友だちが調べた町のよさに気付いている。

4. 単元について

(1) 子どもの実態と教師の願い

本学級は男子 14 名、女子 18 名の計 32 名で、明るく素直な子が多い。何事にも素直で前向きな反応が返ってくる。学校生活を楽しみ、友だちと仲良くしようとする姿が見られる。しかし、学習の場面では自信のなさから意見を言うことに消極的な子が多いため、朝のスピーチなど人前で話す時には書いたものを見ながら話すようにしている。学校生活全体を通して、自分の話したことが友だちに伝わることの楽しさ、友だちと話し合うことの楽しさを感じさせていき、自分の考えを伸び伸びと表現できる子になってほしいと思う。そのために有効な手立ての一つに情報機器の利用があると考えている。言葉による表現が十分でない場合、デジタルカメラやビデオ等の映像は、大きな助けとなるのではないかと。本単元では子どもたちの表現活動を支えるものとして、映像に関わる機器を利用していききたい。

また、本単元ではお店で働く人に話を聞いてくるなど地域の人と積極的にかかわることを目指しているが、大部分の子どもたちは馴染みのない大人と話す経験が少ないため、戸惑うことが予想される。これまで経験してきた人とのかかわりを思い出させ、頑張って取り組もうという意欲をもたせたい。また地域の人とのかかわりを大切にする活動を通して、これからも親しみを持って地域の人と接していけるようにしたい。このような人との良い関係作りには、どのようにコミュニケーションをとっていけば良いのかを子どもたちに考えさせ、教えていく必要がある。これは情報教育の重要な役割だと考えている。2年生の段階にあった取材やインタビューの方法について学ばせ、実践させていきたい。

(2) 単元設定の趣旨

本単元は、主として学習指導要領に示された【(3) 地域と生活】の内容である。前期の「すてきはっけん！みなみがわら」の学習では、学区全体を探検した。広い学区を歩く中で、町のいろいろな建物や自然に目を向けて活動した。そのなかで、もう一度よく知りたい場所（商店街、お店、公園、建物）はコース別に町たんけんを行った。知りたい場所をよく見る活動から、子どもたちは今まで知らなかったことが分かり、学区にあるすてきを発見することができた。

9月からは、学区にあるお豆腐屋さんと和菓子屋さんとの交流をしてきた。ここで、地域に暮らす人々とかかわることで新たな発見ができる嬉しさや、人とかかわることの楽しさを感じることができればと考えた。

後期 2 度目となるこの「町たんけん」ではこれまでの学習を生かし、地域の様々な人とかかわりをもたせることに重点をおいて、南河原のすてきを発見できるようにしたい。地域に暮らし、仕事に誇りをもち工夫しながら働く人の思い、子どもたちを温かく見守る人の思いなどに気づくようにさせたい。そして、自分たちが住んでいる町を大切にする子どもを育てていきたい。

(3) 本単元と情報活用能力

ICT 活用で意欲を高め、思考・表現を支える

児童は低学年ということもあり、これまでは ICT 活用の経験があまりなかった。2年生になり、前期に活用した ICT は、デジタルカメラ、実物投影機であるが、これはどちらも教師が児童や児童の作品を撮影したり、学習教材を提示したりすることに使用してきたもので、児童が自ら使用して何かを作ったり発表したりということはなかった。しかし、実態にあるように、自分の考えを発表したり学習内容をまとめて表現したりすることが苦手な児童が多い本学級において、「調べたことを発表する」

という表現活動が重要な本単元では、情報機器の利用が有効であると考えられる。そこで機器の利用に慣れることをめあてに、9月から日直のスピーチにデジタルカメラで撮影した画像を利用するという活動をスタートさせた。これは担任が準備した2台のカメラを日直の二人が持ち帰って撮影し、次の日の朝の会で発表するという形式をとっている。撮影してくる内容は、「自分の大切にしているもの」「好きなもの」「頑張っていること」などである。家の中の様子を撮影してみんなの前で発表するというプライバシーに関わる活動であることから、スタート前に各家庭にお願いの手紙を配布して協力を得た。まだカメラの操作に慣れることが中心であるが、どの児童もカメラの持ち帰りをとても楽しみにしており、一生懸命に撮影してきた写真を嬉しそうに発表している。「見ればわかる」という映像の良さに、発表の緊張も和らぐ様子が見られる。聞くことが苦手な児童が多い学級であるが、この発表時は真剣に見聞きしている児童が多く、質問も多く出されて子ども同士のやり取りが活発である。映像の活用が興味・関心を高めたり、理解を助けたりしていることが感じられる。本単元では様々な発表方法の中から自分の伝えたいことがうまく伝わると思われる方法を児童が選択するが、このような ICT 活用の経験が「カメラを使ってお店の中のことがわかるように撮影してきたい」「ビデオなら、行っていない人に〇〇さんの話を聞いてもらえるな」等のように活動への意欲を高めたり、実際に取材したことについての思考・表現を支えたりできるのではないかと考える。

人とのかかわりを通して、大切な情報を

本単元では、地域にすむ人との関わりが重要である。これまで児童が体験してきた人との関わりは、学年・学級の友だちとの活動、学級内での学習における発表や対話、グループでの発表などが主であり、生活科の「学校たんけん」で1年生に学校の様子を教えたり案内したりする活動を行ったが、上手に説明ができたグループは少なかった。また「たてわり活動」に参加しているが、上級生や教師の働きかけに応じて一緒に遊ぶことがめあてであり、自分から何か働きかけるということはまだ特に設定されてない。まだまだ教師対自分が中心の生活である。その児童が地域に出て取材活動をするには、戸惑いや緊張があるだろう。けれども、ここで人と触れ合い、自分に語りかけてもらう活動をすることで、大切な情報を得ることができ、身近な環境や自分への気付きを深められるのである。

そこで、前の単元「だいつのへんしん」の活動で、「見学や取材の時に気をつけることはなんだろう」として、見学時のマナーや質問の内容、また質問の仕方について考える時間を設けた。これまでの国語の「聞く・話す」の単元で話の聞き方や伝え方について学習してきたことを基に考えたが、ここでは大人である地域の人が相手であることから、「丁寧に話そう」「です、ます、を使おう」「はっきり話さないと、聞こえないかもしれない」のような内容が子どもたちからすぐにあげられた。また、質問の内容や自分がよく見てきたいものをカードにまとめてから取材に行くことや、質問の仕方を練習していくことなどを確かめて、活動した。ここでの経験が本単元での取材活動に生かされると考える。

児童とこれまでの情報教育の経験

	ICT 活用	表現方法	取材・インタビュー
内容	OHC、デジタルカメラ パソコン	文字、音声、絵 劇化、紙芝居 デジタルカメラ	国語「きいたことをもとに書こう」 ・友だちに夏休みについて質問する。 生活科「学校あんない」 ・児童によって、校長に質問する。

これからの姿

本単元、またこれまでの児童の体験を基に、この先、更に情報活用能力を育て伸ばしていくことを望んでいる。今回は表現方法として主にデジタルカメラを使用した、「撮影したものを印刷して提示する＝絵のより詳しい形」としての意味合いが強かった。高学年ではこれをデジタル素材としてパソコンに取り込んで加工したり、作ったものを対象を決めて発信したりという活動につなげていきたい。高学年で一足飛びに情報技術や情報の特性を教えることは難しい。低学年から段階をおって体験させたり教えたりすることが大切であるとする。

◎ 町の人とのかかわり

ペットショップ「チョコ」さん（栄通り商店街）

ペット用品を取り扱うお店。「前にも来ていましたね」と快く引き受けてくださった。

八百屋さん「はこじま」さん（栄通り商店街）

4年生が飼育するモルモットのえさの野菜を毎日用意してくれる商店街にある八百屋さん。

肉屋さん「こわだや」さん（ハッピーロード）

おいしくて、安全な食材を本校の給食に提供してくださっている、商店街の肉屋。3年生の社会科の学習にも協力いただいている。

スポーツ屋さん「かわだスポーツ」さん（ハッピーロード）

本校の名札や、体操服なども取り扱っている商店街のスポーツ用品屋、約20年前にPTA会長として本校にかかわっていただいた。昨年度の町探険のときには、商品や名札についての質問に答えていただいた。

パン屋さん「ポコ・ア・ポコ」さん（ハッピーロード）

一昨年商店街にできたパン屋さん、子どもたちもよく利用している。

スーパー「ぶんかどう」さん（ハッピーロード）

商店街にあるスーパーマーケット、子どもたちの家庭もよく利用している。

スーパー「ローゼン」さん（河原町団地）

河原町団地内にあるスーパーマーケット、河原町団地の子どもたちはよく利用している。

◎ これまでのかかわり

お豆腐の「清水や」さん

「大豆のへんしん」からお世話になっている。子どもたちも「いろいろなお豆腐を売っている」ということを知っている。

和菓子屋さん「しんいわき」さん（栄通り商店街）

創立記念日に全校児童に配布する。「南小まんじゅう」を毎年作ってくださる商店街の和菓子屋さん。3年生の社会科の学習にも協力いただく。